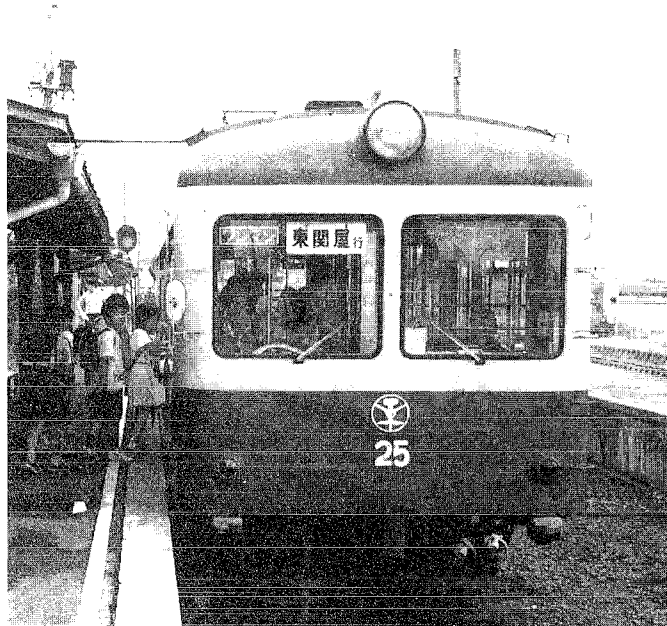


▲電鉄は沿線住民の貴重な交通機関として利用されていたが……



新潟交通電鉄 「存続」か「廃線」か

「ガタン・ゴトン」長年沿線住民の公共交通機関と親しまれてきた新潟交通電鉄が、今、大きな転機を迎えようとしています。

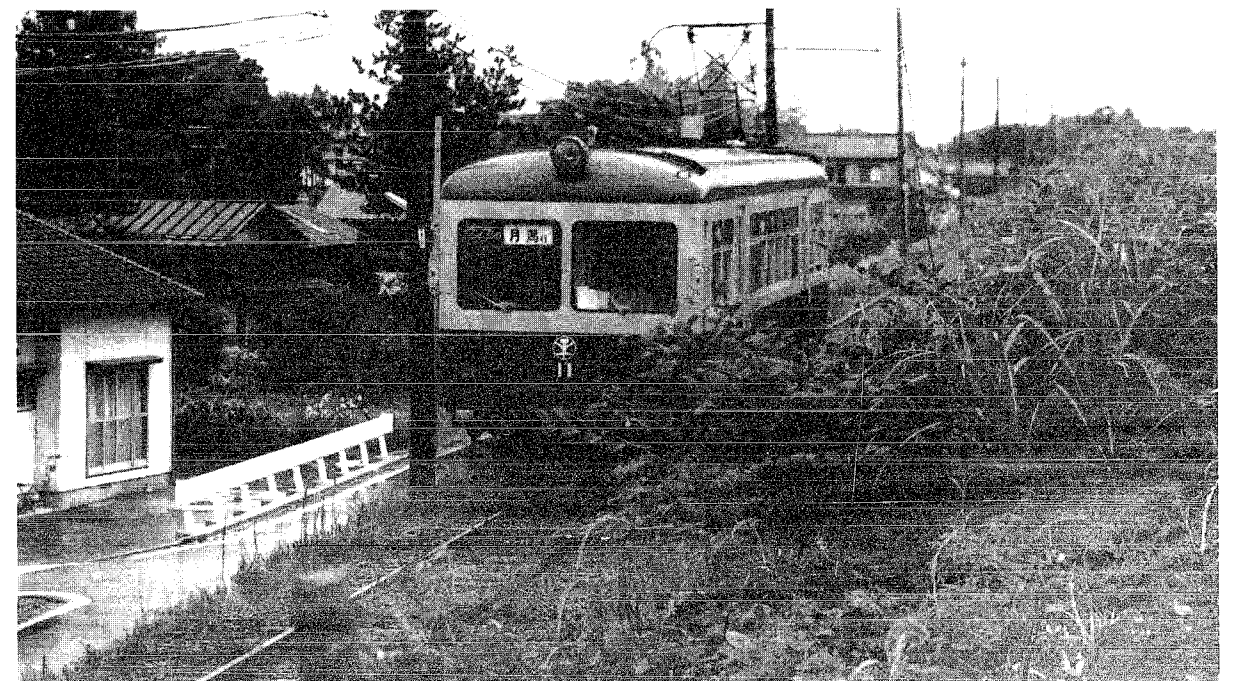
今年3月、新潟交通から、月潟、関屋間の沿線市町村に対し、平成10年3月末で電車事業を廃止したいとの申し入れがありました。

新潟交通からは、現在、電車事業に関して、毎年度の赤字を累計すると50数億円となり、今後、一企業として事業を運営することは難しいとの見解であり、一方、沿線市町村からは、「新潟交通電鉄は、通勤通学の大切な交通手段」として存続を求めています。

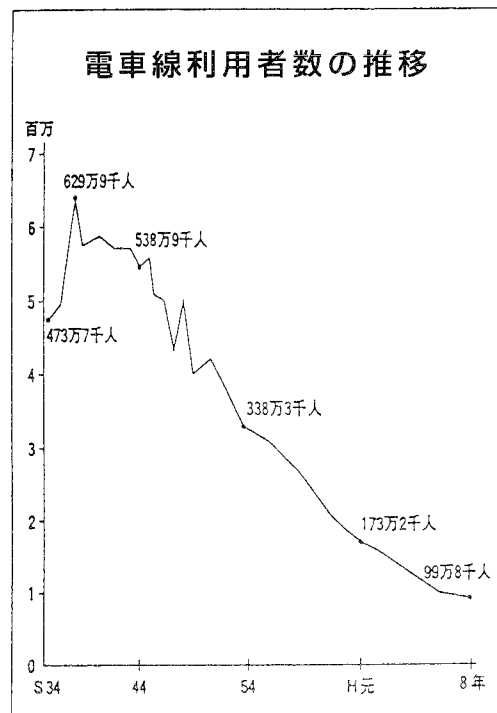
モーターリレーゼーションの進む今日、公共交通機関として親しまれてきた新潟交通電鉄が、大きく揺れています。

新潟交通電鉄は、昭和8年8月に燕市と新潟市を結び開通し、沿線住民の大切な交通機関として利用されてきました。開通当時は珍しさもあって利用客は相当数あり、貨物の取り扱ひも多く、親子兄弟、親戚、知人への贈答箱が山積みされるほど盛況だった時もあったと聞いています。又、運賃は県庁前（現在の新潟市役所）から月潟までが53銭、燕までが58銭だったということです。

しかし、近年、家用車の普及、高速交通網の発達により、平成4年には白山前、東関屋間、平成5年には月潟、燕間がそれぞれ廃止され、現在に至っています。



▲長い間沿線住民に親しまれてきた新潟交通電鉄（西萱場地内）



突然の新潟交通電鉄の廃線の申し入れは、多くの利用客に不安と心配をいだかせていることと思われます。

沿線市町村（新潟市、白根市、黒埼町、味方村、月潟村、湯東村、中ノ口村）では、4月19日に「新潟交通電車対策協議会」を設置し、「電鉄は、通勤、通学、通院や買い物等、日常生活に欠くことのできない大切な交通機関」として、存続を強く求めていくこととしました。

又、4月27日同協議会は、新潟交通本社、新潟運輸局、新潟県庁を訪問し、電車存続に関する要望書を提出し、存続をお願いするとともに、引き続き、各関係機関にも要望していく方針を確認しています。

又、本村においても、月潟小学校、中学校、商工会からも、新潟交通電車存続に関する陳情書、要望書が届けられており、村議会でも6月定例会で存続決議を行い、先般関係機関を訪問しております。

新潟交通電車対策協議会の各首長さん方も、「新潟交通のきびしい実情も理解できるが電鉄は沿線住民の唯一の軌道交通、なんとしても存続をお願いしたい。」と話しておられ、今後も存続に向け努力していくこととしています。

長い間、四季を問わず、沿線住民の貴重な交通機関として利用されてきた電鉄。私たちもできるかぎり電鉄を利用し、そして利用者一人一人が電鉄存続のため何ができるのか、考えるところなきにきている時期なのかもしれません。